

■ 加藤進昌発達障害医療研究所所長退任記念の会 ■

令和4年4月26日に昭和大学上條記念館に於いて加藤進昌所長退任記念の会が同大医学部精神医学講座の主催にて行われました。法人理事長、学長を筆頭に加藤先生による同大附属病院の近代化および発達障害医療研究所の設立に労を厭わず尽力された方々が先生への感謝を込めて祝辞を披露され、終始和やかな温かい会でした。

先生の近代化の柱は救急病棟の立ち上げと発達障害専門外来およびデイケアの開始です。これが2014年の大学附置研究所としての発達障害医療研究所の発足に繋がりました。



烏山病院での診療開始がマスコミにも盛んに取り上げられたことにより医学医療の分野で大人の発達障害という問題意識が広く認知され、「発達障害者支援法の施行」に繋がり、さらにデイケアプログラムの開発研究が厚労省の研究費補助金に採択され、そのプログラムの施行が診療報酬にカウントされるという画期的な成果として結実しました。

このような経緯のなかで加藤先生は数多くの後進の医師、研究者の実践的な指導に当たり後継者の育成にも成功され、多くの人々から感謝されている感じが感じ取れました。

我が東風の会も加藤先生のご指導により誕生した経緯があり、改めて謝意を記します。因みに本年4月から太田晴久氏が新所長に就任されています。(H.K)

■ グループホーム「おはなの家」を見学しました ■

けやき並木が美しい甲州街道。

緑のトンネルを抜けた先にその家がありました。

グループホーム「おはなの家」。

「おはな」は「家族のように支えあう」という意味を込めて付けられた名前です。

今回は、他のグループホームを利用している、あるいは気になっている世話人数名で「おはなの家」を見学しました。



ワンルームマンションのような建物を前に、迎えてくれたのはスタッフの元気な声と玄関先の満開のあじさい。それだけで「おはなの家」の心地よさが伝わってきます。

「おはなの家」は我々「烏山東風の会」の大先輩である「あかね会」新会長の天野実千代さんが代表理事を務めるグループホームです。忘れてはならないのは天野さんも世話人と同じ、障害のある子の母親ということ。



見学は三階からなる建物の案内から始まり、一階で食事や自己管理のルール等、グループホームについての概要や説明を受けました。

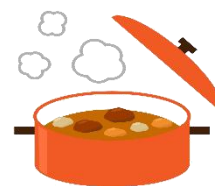
まず最初に案内されたのは屋上、「おはなの家」は昭和大学附属烏山病院が見える近さです。入居者の個室は七部屋、サテライト（近くのアパートの一室）は二部屋。三階は女性、二階は男性で、お風呂やトイレも男女別になっています。個室を見学しましたが部屋は広く明るく、入居者の方が自分のペースで生活している様子が伺えました。

二階のキッチンには個々にパントリーまで用意されており、Wi-Fi 設備も防災グッズも完備、なんだか至れり尽くせりですね。

「おはなの家」は滞在型＝滞在期限のないグループホーム（サテライトのみ期間は三年）。基本的に日中は外出することがルールで、スタッフは入居者と交流が取れるよう一日一回、会うようにしているとのこと。

食事は原則自炊ですが、週に三回は食事提供（しかも無農薬の食材！）があり、月曜日はカレーの日と決めているそうです。他にも、暮らしを楽しむために定期的にイベントを開催しているのだとか。

- ・「やってみよう」ではなく「一緒にやらない？」から始める
- ・入居者の「できないこと」ではなく「できること」を膨らませる
- ・大変だけど、大変なことにしない



説明の合間に挟む、天野さんやスタッフの言葉に、世話人の私たちが元気を貰ったのは言うまでもありません。

動画や画像を交えながらの説明はわかりやすく、質疑応答にも一つ一つ親身に答えるスタッフの姿に、我が子を安心してお願いできる、と思った世話人は多いのではないのでしょうか。

障害のある子の自立を考える時、いきなりの一人暮らしは敷居が高いので、まずはグループホームと考える親は少なくないと思います。

一番大切なのは本人の自立したい、という気持ち。それに寄り添いたいけれど、不安や心配が先走り、なかなか前に進めない。見ず知らずの人との共同生活への心配だったり、家から離れることで生活リズムを崩さないか、トラブルが起こったら、といった不安……。

考え出すと、どうしても二の足を踏んでしまいがちですが、そこは百聞は一見にしかず。グループホームにも滞在型や通過型とさまざまな形がありますが、実際に見ること、聞くこと、尋ねることで、目の前が開けることもあります。

検討しているならば、まずは動いてみる。

頭でっかちにならず、気になるグループホームがあればまず、見学してみてもいいのではないでしょうか。(R.I)



<グループホームとは>

必要な支援を受けながら生活し、自分のペースで自立生活に取り組むことができます。家族にとっても、家庭内で抱え込むことから解放され、当事者、家族、それぞれの生活基盤を構築していくきっかけとなります。



<種類>

滞在型 入居期間制限のないもの

通過型 基本3年間の利用制限。ただし希望の転居先が定まらない場合、多少の延長は認められる。

ショートステイ 一回あたり6泊利用できるが、半日でも可能。グループホーム入居の前にお試しで利用できる。また、一時休息場所として定期的に利用する人もいる。

<住居の種類>

ワンルーム型 アパートやマンションの一室

シェアハウス型 2-10人で各自個室を持ちキッチン、リビング、風呂、トイレなど共有スペースがある。

サテライト 本体のグループホームから少し離れた場所で、一人暮らしに近い状態で生活をする。

<入居条件>

障害者手帳を持っていることや障害支援区分に認定されていること

<入居費用 ある一例>

家賃 ¥40,000 (家賃補助制度、障害者特別給付費が支給され実質0円)

食費 1ヶ月朝、夕 ¥27,000 水道光熱費 ¥10,000 消耗品費 ¥3,000 リクリエーション費 ¥2,000

上記に関しては、グループホームによりサービスが変わり、自治体によって違いがありますので関心のある方は市区町村にお問合せください。新たな選択肢が見つかるかもしれません。

■ 会費振込のお願い ■

この会報誌は「烏山東風の会」に入会している方にお配りしています。10月より下半期になりますので、下半期の会費をまだお支払いになっておられない方は、半年分3000円を以下のいずれかの銀行口座にお振り込みいただくようお願い申し上げます。

① 三菱UFJ銀行 永福町支店 (普) 0106550

「烏山東風の会 会計 黒田邦夫」

② ゆうちょ銀行 記号・番号：10000-29576521 「烏山東風の会」

お問い合わせ：黒田邦夫 090-4173-7604





■「烏山東風の会」今後のスケジュール ■

～何でもお話し下さい。心の壁紙の色と模様を替えてみませんか～

東風の会では、感染状況を見つつ十分な感染対策をしたうえで一部の活動を再開しました。

■家族相談会 10月19日(水) 11月16日(水) 午後1時30分～午後4時
烏山病院 発達障害医療研究所デイルーム

専門家ではありませんが、同じ親の立場として家族会世話人がお話しをお伺いします。

■烏山東風の会女子会 11月26日(土) 午後1時30分～午後4時
烏山病院 リハビリテーションセンター

■参加当日は、コロナクラスターが発生した際の対策の為、お名前、住所等の連絡先の記載をお願いしております

■世話人会 10月22日(土) 11月26日(土) 午後1時半から
会員の方の見学、ご参加をお待ちしています。

◇相談会/女子会/世話人会の申し込み・お問合せ先

：「烏山東風の会」携帯 080-3009-1200 kochinokai@au.com

：「烏山東風の会」ホームページ：<https://www.kochinokai.com> お問合わせコーナー



テイケア写真館

【1分間スピーチと私】

「お疲れ様でしたー」

(今日もサーズデイが終わった。次の1分間スピーチはどうしようかな...)

私はサーズデイというプログラムに隔週で参加している。サーズデイの冒頭には1分間スピーチという最近の出来事を話す時間がある。私は変化のない日常となってしまうため、勉強も兼ねて工作などをして最近の出来事として発表している。サーズデイの直後から、ふと隙間時間に思い出しては考えを巡らす日々が始まる。

(第二種電気工事士の実技試験が終わったし、練習で使った材料で何か作れないかな)

(秋葉原で買った特殊なLEDを使えば8パターンの光らせ方ができそう)

徐々に構想を固めていき、制作に取り掛かり、そしてサーズデイ当日を迎える。

「このようなものを作ってみました」

皆が「すごい」と褒めてくれるのが嬉しいし、ありがたい。

(皆は感情表現を交えて最近の出来事を話しているのに、自分はこれでいいのかな...)

(でも自分の感情がよくわからないから電子工作やプログラミングなどを発表するスタイルを続けるしかないのかな...)

などと考えてしまうこともあるけれど、これでも僅かながらには成長できているはずと信じて、また考えを巡らす日々へ駆け出していく。(M.A)

M.Aさんが実際に発表した作品です

